

DEBUT 首長

徳島県三好市長 黒川 征一氏



くろかわ・せいいち 1947年徳島県池田町生まれ。法政大学文学部卒。68年池田町役場に入り、約30年勤務。その後、徳島県議会議員を4期14年務め、2013年三好市長初当選。趣味は読書、山歩き、ウォーキング。66歳。

音楽ホール計画は見直し 小中学生の教育旅行受け入れ

三好市 池田町など6町村合併で2006年に発足。四国の市町村の中で面積は最大。豊かな自然と「祖谷のかずら橋」など文化遺産がある。

——公約である交流拠点施設計画の見直しをどう進める。

多額の維持費が見込まれる音楽ホールを核とする計画への反対を掲げ、僅差で当選した。結果を真摯に受け止め最大限の努力をしていきたい。老若男女、誰もが容易に交流できる場、知恵や文化を伝承できる場を整備する。今後、市民の意見を聞いて計画見直しの検討を進め、具体的な方向性を示したい。維持費が廉価であることも条件だ。予算が限られる中、手狭で震災対策が課題の本庁舎の建て替えなども必要なためだ。

——人口減少、少子化の現状と子育て支援策の方針は。

少子高齢化は急速に進行しており、高齢化率は38%に上っている。遅れ気味だった子育て環境の整備に力を入れたい。具体的には医療費の助成対象を小学校卒業までから周辺市町村並

みの中学校卒業までに引き上げる。保育料の無料化も第4子以降から第3子以降に拡充する。

県と進めているIT企業を誘致する事業で、今年3月東京に本社を置く企業がサテライトオフィスを開設した。進出を検討する企業の視察も相次いでおり、今後は交流人口の拡大を通じた移住促進にもつなげたい。

——観光や農業・林業の振興策は。

「三好市丸ごと観光地」をスローガンに都会にはない豊かな自然や歴史的な文化遺産を満喫してもらおう取り組みを進める。平家の落人伝説が残る東祖谷地区では、古民家が点在し国の重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けた落合集落などがある。山城町では「大歩危峡」「小歩危峡」で楽しめる急流下りのラフティングのほか、妖怪伝承を生かしたイベントや妖怪モニュメント展示が売り物だ。

小中高生に農村の生活を体験してもらおう教育旅行も市全域で対応している。4月には当市を含む県西部の2市2町が「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」と

して観光庁の認定を受けた。

農業については急斜面の中山間地域が多く大量生産が難しい。付加価値が高く高齢者でも生産可能な作物に力を入れる必要がある。そば、コンニャクイモ、ミツマタなどの特産品のほか、薬草生産などの魅力ある農業で後継者の育成にも努めたい。林業振興では市内5カ所の温泉施設に薪ボイラーを導入済みで、木材の地元利用と販路拡大を進める。

——行財政改革の展望は。

合併後8年で職員数の削減や借金の返済はほぼ順調に進んできた。あと7年で合併後の優遇措置がなくなり地方交付税が大幅に減る。いかに軟着陸するかが課題だ。ただ、市の面積が広い地域にある総合支所を全て廃止するのは難しい。市民のニーズに基づきながら不断の見直しをすることで行政のスリム化を進めていきたい。

(聞き手は

徳島支局長 上原 吉博)